

国立国語研究所学術情報リポジトリ

談話行為情報

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 研究社 公開日: 2026-07-24 キーワード: 作成者: 居關, 友里子 メールアドレス: 所属: 国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員
URL	https://doi.org/10.15084/0002000724

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0
International License.



第4章 | 談話行為情報

本章では、会話に対する談話行為情報の付与について取り扱う。談話行為情報とは、2者以上の者がやり取りする活動における参与者たちのコミュニケーション行動について、その特徴を捉えた情報である。『日本語日常会話コーパス』(CEJC) のコア20時間分には、独自の枠組みに基づいて談話行為情報が付与されている。これらの情報の利用や、新たな枠組みを検討する際の参考のために、本章ではCEJCに対する談話行為情報の付与に関する試みについて取り扱う。1節で談話行為情報に関する背景について概観したうえで、2節と3節ではCEJCが使用した枠組みと付与結果の概要について紹介する。

□ 1 背景

1.1 談話行為情報の考え方

私たちは、会話などの言語活動の中で発話を行うことによって、参与者たちが何をどのように理解しているのか、あるいはやり取りの局面など、その活動を取り巻く様々なコンテキストを新しく塗り替えていく。**談話行為情報 (Dialogue Act)** は、そのような変化を生じさせる参与者のコミュニケーション行動の1つ1つが、どのような性質を持ち、どのように前後の振る舞いと関連し合っているのかに注目するものである。

この考えの基礎にあるのは、**言語行為論** (Austin 1962) の考え方である。オースティンは、発話は単に意味を伝えるだけでなく、現実世界に働きかける力、つまり行為としての機能を持つことに着目した。発話と行為の間の関係について、ことばを発話することそれ自体である「**発語行為 (locutionary act)**」、発話がその中に持つ、行為としての機能である「**発語内行為 (illocutionary act)**」、そして、その発話によって何を生じさせたいのか、何が生じたのかという「**発語媒介行為 (perlocutionary act)**」、これらの異なる3つの側面があることを指摘している。このうち、談話行為情報が注目するのは発語内行為である。例えば「このあとお茶行く時間ありますか?」という発話は勧誘という行為として、「これ持ってもらえると助かるな。」という発話は依頼という行為として解釈さ

れるといった側面である。

談話行為情報ではさらに、発話と発話、言い換えると、行為と行為がどのように連なってやり取りを構成しているのかという点にも焦点をあてる。例えば談話分析の分野では、Sinclair & Coulthard (1975) が、教室談話の分析をもとにやり取りを**発話交換構造**として定式化している。発話交換構造は、**発話交換 (Exchange)**を相互行為の基本単位として位置付け、**開始 (Initiation)**、**応答 (Response)**、および任意の要素である**フィードバック (Feedback)**という、3つの構成要素(**ムーブ**)に分けて捉える。以下に、1つの発話交換を成すやり取りの例を示す¹。1行目は開始のムーブに分類される、相手の反応を引き出す発話(誘出)、2行目は応答のムーブに分類される、情報を示す発話(情報)、そして3行目はフィードバックのムーブに分類される、2行目を受け止める発話(認定)となっている。

会話ID : C002_013a

- | | | | |
|---|-----|-------------|--------------|
| 1 | 日野 | 朝からテレビ見てる?。 | [Initiation] |
| 2 | しげ子 | 見てるー。 | [Response] |
| 3 | 日野 | あっほんと。 | [Feedback] |

発話交換構造は教室談話への適用を念頭に置いたものであったが、調整を加え、日常会話への適用も行われている² (Stenström 1994)。

談話行為情報が扱うのは、こうした発話による行為やその連なりの様相についてである。談話行為情報を付与したデータは、会話の成り立ちや当該の活動の持つ性質を理解するための研究資源として、また人間と機械による対話システムの構築といった応用に向けた資源としても役立てられると考えられる。

1.2 先行研究

談話行為情報の付与枠組みの検討は国内外で試みられ、付与されたデータの共有も行われている。

海外においては、TRAINSプロジェクト (Allen, *et al.* 1994) や、対話者間の情報差をもとに地図内の移動を指示するHCRC Map Taskコーパス (Anderson, *et al.* 1991) に対する談話行為情報の付与 (Carletta, *et al.* 1996) など、特定の活動形

1| 本章で取り上げるCEJCの例は、第3章で説明したCEJCの転記タグは省略し、直感的に分かりやすい表記に改めた。ただし、笑いを表す(L)のみタグ表記を使用する。

2| やり取りの構造に関する研究については、石崎・伝 (2001) や伝 (2015) に詳しい。

式や場面を念頭に置いたもののほか、後に詳述するISO 24617-2 (2012) のもととなっている、多次元による情報付与の枠組みを提案したDAMSL (Allen & Core 1997) やDIT++ (Bunt 2009) など、より広範な場面向けて開発されたものがある。

日本での取り組みとしては、荒木ほか (1999) による日本語の会話データに適用可能なタグの開発が挙げられる。ここでは、まず当該の振る舞いが働きかけを行うものか、それに応えるものか、あるいはその両方を担うものか、やり取りを締めくくるものか、などといった行為連鎖上の位置付けをもとに大分類を選択し、その後、下位に位置付けられた発語内行為を特定するといった仕組みが用いられている。また、これを基礎として発展させた談話対話研究におけるコーパス利用研究グループ (2000) は、新たに関連性タグを設けることによって、働きかけとそれに対する明示的な応答の間に生じた関連するやり取りを構造化して示すことを可能にしている。

これらの取り組みの1つの節目となったのが、2012年に国際標準化規格として策定されたISO 24617-2 (2012)³である。これまでに開発されてきた複数の枠組みを取りまとめたもので、多様な言語でのやり取り、さらに2人以上の参加者が関与する音声、テキスト、マルチモーダルなやり取りなど、活動の形式や特性に縛られない様々なデータに汎用的に適用することを視野に入れ開発されたものである。使用領域の拡張や、枠組みの微調整といった応用も想定されている。CEJICへの談話行為情報付与の枠組みを検討するに際し参考にした部分が多くあるため、関連する箇所を中心に以下で確認しておきたい。

ISO 24617-2に特徴的なのは、**次元**という観点を取り入れている点である。1つの発話は、しばしば複数のコミュニケーション機能を担いうる (Allwood 1992; Popescu-Belis 2005; Bunt 2011)。以下の事例において、1行目の母の発話は情報要求、2行目の息子の発話はそれに対する返答として聞ける。

会話ID: K002_014

- 1 母 朔くん その人 クワガタってどれくらい生きるの？。
- 2 息子 二 えーっと こ このー ヒラタクワガタってやつは二年から三年か五年。

3) その後2020年に改訂版ISO 24617-2 (2020) が公開されており、新たな次元の追加や、より詳細な依存関係の表示方法の導入などといった更新が加えられている。

これらの発話をさらに丁寧に見てみたい。1行目で母は情報要求を行うに際し、発話の冒頭で息子の名前を呼ぶことによって息子を発話の宛先として明示している。そして、特定の相手に宛てて情報要求という隣接ペア第1成分 (Schegloff & Sacks 1973)⁴を行っていることから、息子を次の話者として選択しているといえる (Sacks, *et al.* 1974)。2行目で息子は返答を組み立てているが、この発話順番の中では、「えーと」という言いよどみによって、自身が返答を現在準備している最中であり、発話を継続するつもりであることを示している。これにより、息子は発話順番を維持し、引き続き自身の発話を聞くよう母に促している。また、いずれの発話でも、自身の発話に関する修正も加えられている。例えば、母は「その人」という表現を「クワガタ」と言い換えている。また息子は、冒頭で「二年」と年数を答え始めようとしたが中断し、「このヒラタクワガタってやつは」という表現を加えたうえで年数を改めて発話することにより、返答が特定の種類のクワガタについての寿命であることを示しており、より正確な応答として組み立て直している様子が見てとれる。

このように、1つの発話はしばしば複数のコミュニケーション機能を同時に担っており、その機能には情報要求とそれに対する応答といったような、取り組んでいる活動や課題の遂行に直接関わるものだけでなく、発話順番を管理したり、やり取りの構造を示したり、ときには発話のトラブルに対処したりといったような様々な機能が含まれている。このような多様な機能を、発話ごとに判定して情報を付与していくのは複雑な作業となりうる。そこでISO 24617-2は次元を導入し、これらの機能を構造化している。用意された次元には以下のようなものがある。

タスク (Task) 当該のコミュニケーションが行われる動機となっている課題や活動を遂行するためになされる行為⁵。例えば、活動遂行に関わる情報提供や質問、提案などである。

自己フィードバック (Auto Feedback) 話し手が直前の発話をどのように理解・処理したのかについて表示する振る舞い。あいづちや聞き返しなどが含

4) 隣接ペアとは[質問-返答][依頼-受け入れ/拒否]など、私たちが会話の中で規範として参照している、強い結び付きを持った2つの行為の組み合わせのことである。それぞれ別の話者によってなされた2つの発話から構成されており、1つ目の発話(質問、依頼など)を第1成分、これに应じる発話(返答、受け入れ/拒否など)を第2成分と呼ぶ。

5) ここでいう課題や活動は、特定の物事を決定するといったような具体的な目的を持つものだけでなく、和やかに一緒に時間を過ごすといった、目的とは言いにくい志向のもとに実施されるものも含まれる。

まれる。

他者フィードバック (Allo Feedback) 先行する発話に関して相手が行った、発話の理解や処理に関する振る舞いに対し、何らかの言及をするもの。例えば、相手が自身の発話を正しく理解したことを表明したり、相手が誤解したことを述べるなどの振る舞いが挙げられる。

発話順番管理 (Turn Management) 発話順番の調整・管理に関わる行為。次話者として選択するために参加者の名前を呼ぶ振る舞いや、現在取得している発話順番を保持するために言いよどみを産出する振る舞いなどが挙げられる。

時間管理 (Time Management) 話し手が行う、発話の時間配分に関わる振る舞い。発話内容を準備する際に発する言いよどみなど。時間管理に属する振る舞いは、同時に、発話順番管理に属する機能も有するものが多い。

談話構造化 (Discourse Structuring) 実施されている会話をはじめとした活動について、その構造を明示する振る舞い。活動の開始や終了を示す発話、話題を導入する振る舞いなどが含まれる。

自己コミュニケーション管理 (Own Communication Management) 話し手が、自身が産出中の発話の中で行う、発話を編集・修正する振る舞い。自身の発話内の表現を別の表現に置き換えるなどといった**自己修復** (Schegloff, *et al.* 1977) や、産出中の発話を途中で取りやめるといった振る舞いが挙げられる。

他者コミュニケーション管理 (Partner Communication Management) 聞き手が、相手が産出している発話に対して編集・修正を行う振る舞い。相手が発話の産出に苦労している際に、続く発話を補完して支援したり、誤りと思われる箇所を訂正するといった振る舞いなどが含まれる。

社会的付き合い管理 (Social Obligations Management) 社会的な規範や慣習に則り、社会的義務を果たすために行われる振る舞い。挨拶、感謝の表明、謝罪などといった振る舞いが含まれる。

ISO 24617-2は、発話が担うコミュニケーション機能について、上述の各次元に固有の機能と複数の次元で汎用的に用いられる機能とを分けることによって、タグセットが膨大になることを防いでいる。

また、付与された談話行為情報が、他の発話が担う談話行為との間に結び付きを持つ場合には、その関係性に関する情報である**依存関係情報**を付与する。用意されているのは大きく2種類の結び付きである。当該の発話が別の話し手

による先行発話に応答するものであることを示す**機能的依存関係 (Functional Dependence Relation)**、および、先行発話の処理に関する発話が先行発話に対して担っている関係を示す**フィードバック依存関係 (Feedback Dependence Relation)**である。

□2 『日本語日常会話コーパス』への談話行為情報付与

2.1 談話行為情報付与の目的と設計方針

CEJCに談話行為情報を付与する主な目的は、コーパス中の会話から、研究や教育で用いようとする特定の発話やその連なりを、コミュニケーション上の機能に基づいて抽出できるようにすることである。会話データから必要な発話ややり取りを取り出す際、私たちはしばしば、第5章で紹介する「中納言」などの検索アプリケーションを用い、会話の転記に含まれる特定の文字列や形態論情報を手がかりに検索を行う。このとき、用いられるであろう言語形式をあらかじめ想定しておく必要がある。しかし、私たちがある振る舞いを行う際に、どのような言語形式が使われているのかを知りたいこともある。また、情報要求の直後に返答が生じるといったような、行為が特定の連なりで生じている事例を抽出したいこともある。このような場合に、談話行為情報は言語形式に頼らず該当する発話を探し出す手がかりとなる。

談話行為情報の付与枠組みを設定する際、通常、対象となる場面の特徴に応じてタグセットを調整し、当該データの性質を的確に捉えられるようにする。しかしCEJCには、いわゆる「おしゃべり」だけでなく、家具の組み立てのように会話を主目的としない活動や、同じ場で人々が思い思いにくつろぐような、会話に志向していない場面も含まれている。このような多様な相互行為場面を扱うため、CEJCでは、幅広い活動や会話形式に対応できるようタグセットを検討し、性質の異なるデータにも共通に用いることとした。その結果、場面の持つ特性に注目し、詳細な特徴を追究するといった使用には向かないものの、日常生活における談話行為の大まかな分布や、場面間の差異を大きく捉えるための資源としては有効であると考えられる。

2.2 談話行為情報の枠組み

2.2.1 付与対象の単位

会話に談話行為情報を付与する際には、産出された発話を何らかの基準に基づいて単位に区切る必要がある。用いる単位の選択は、発話に付与するタグの

選択に影響を与える重要な要素である。ISO 24617-2のように、各コミュニケーション機能を担う範囲に合わせてその都度発話を区切るという方針を採用すれば、当該のコミュニケーションにおける振る舞いをより正確に捉えることが可能となる。しかし、発話内に機能を見出すたびにこの作業を行うのは大きなコストがかかる。反対に、例えば統語的な基準に基づいて機械的に認定される単位を用いれば、単位の切り出しにかかるコストは軽減されるものの、やり取りの中で生じる振る舞いを適切に捉えることは難しくなる。

本枠組みでは、CEJCの転記で採用されている単位の1つである**発話単位**(JDRI 2017)を使用する(第3章参照)。この単位は、「話し手と聞き手が行為や情報を交換する際の基本単位に相当し、統語的・談話的・相互行為的な一まとまり」(JDRI 2017:2)を成すものとされており、当該相互行為におけるやり取りの主筋を捉えるうえで、合理的な単位であると判断した。しかし、1つの機能が2つ以上の単位にまたがって生じる例や、1つの単位の中に複数の機能が生じる例なども存在し、そのため当該の機能の生じている正確な数を捉えることはできていない。タグの出現数をもとにした分析を行う際には、このことを念頭に置いて議論を行う必要がある。

2.2.2 枠組みの概要

CEJCに適用する談話行為情報の枠組みは、1.2節で取り上げたISO 24617-2の考え方を参考に設定した。個々の発話は複数のコミュニケーション機能を同時に果たすことができるという視点を取り入れつつ、同時に果たされるコミュニケーション機能の数や組み合わせはある程度限られることから(Popescu-Belis 2005)、選択可能なタグを限定した枠組みとした。具体的には、扱うタグを、基本的なコミュニケーション機能を扱う**レベル1**(2.2.3節)と、相互行為の調整や展開の管理を担う機能を扱う**レベル2**(2.2.4節)に分け、1つの発話に対し、レベル1タグを必ず1つ、レベル2タグは該当する場合のみ1つ付けることとした⁶。また、例えば情報要求の発話とそれに対する返答の発話のように、2つの発話間に特定の関係性が見られる場合は、**依存関係タグ**と**依存先**からなる**依存関係情報**(2.2.5節)を付与する。付与例を表1に示す。

6) 1つの単位が、同一レベルに属する2つ以上の機能を担うこともありうるが、その場合は、別途設定した優先順位に従って付与するタグを1つに定めるようにした。

表1 タグ付与の例(会話ID:T007_017)

id	話者	発話テキスト	レベル1	レベル2
1	小山	何名ぐらい来んですか?。	T_Question 依存関係:- 依存先:-	- 依存関係:- 依存先:-
2	塚田	二人ぐらいとか言ってたかな。	T_Answer 依存関係:Prospective 依存先:1	- 依存関係:- 依存先:-
3	小山	二人?。	FB_Repetition 依存関係:Retrospective 依存先:2	Confirmation 依存関係:Retrospective 依存先:2
4	塚田	うん。	FB_Positive 依存関係:Retrospective 依存先:3	A-Confirmation 依存関係:Prospective 依存先:3

2.2.3 レベル1

レベル1は、タスクの進行に関わる働きかけやその受け取り、社会的な付き合いに関わる振る舞いといった、各発話が第1に担う基本的なコミュニケーション機能を取り扱う。2.2.1節で言及した単位に対し、表2に挙げたタグセットの中から最も妥当なタグを1つ選択する。

表2 レベル1 タグセット

タスク系	情報提供／独り言／情報要求／確認要求／返答としての情報・確認提供／依頼系／依頼系への対処／申し出／申し出への対処／注意獲得／注意獲得への対処
フィードバック系	フィードバック肯定／フィードバック了承／フィードバック反復／フィードバック語彙的反応
社会的付き合い管理系	挨拶／謝罪／謝罪への対処／感謝／感謝への対処
その他	非言語行動／合図／不明

レベル1タグには、下位分類として、**タスク系**、**フィードバック系**、**社会的付き合い管理系**、**その他**を設定した。冒頭3つのタイプはISO 24617-2で設定された「タスク」「自己・他者フィードバック」「社会的付き合い管理」が担う各機能に準ずる。タグセットについてはISO 24617-2を参考に修正を加えたものを使用した。以下に、各タグの概要と適用例を示す。

(A) タスク系

■**情報提供 (T_Inform)** 情報、考えなどを述べる振る舞い。評価や共感の

促しなど、特定のスタンスを含む発話も広くここに含める。

会話ID：T011_005

- | | | | |
|---|----|--------------------------|---------------|
| 1 | 佐竹 | なんかねー こう見えてー青森県産のサバらしいよ。 | [T_Inform] |
| 2 | パパ | うん。 | [FB_Positive] |

次の例のように、同一の行為が複数の単位にまたがることもある。その場合には、個々の単位に同じタグを付与する⁷⁾。

会話ID：S001_006

- | | | | |
|---|----|----------|-----------------|
| 1 | 健 | 淳若いね。 | [T_Inform] |
| 2 | | そういえばねー。 | [T_Inform] |
| 3 | 翔子 | うーん。 | [FB_Positive] |
| 4 | | 若いよー。 | [FB_Repetition] |
| 5 | 淳 | そう?。 | [FB_Positive] |

■独り言 (T_SelfSpeech) 自身に向けたつぶやきや自問・自答などの振る舞い。

会話ID：T003_001 手元の計算問題を1人で解いている

- | | | | |
|---|----|--------|----------------|
| 1 | 拓人 | 一十百千万。 | [T_SelfSpeech] |
| 2 | | 二万五千分。 | [T_SelfSpeech] |

続く発話の準備を行っていることの表明(フィラーなど)や、何らかの事柄を思い出したことの表明などが1単位を占める場合にもこのタグを付与する。

会話ID：T003_004 全く別の話題の最中で

- | | | | |
|---|----|----------------------------------|----------------|
| 1 | 陽菜 | あっ。 | [T_SelfSpeech] |
| 2 | | そういえば由美ちゃんのさー 香穂ちゃんのキーホルダーってまだー。 | [T_Question] |
| 3 | 由美 | はーっ。 | [FB_Positive] |
| 4 | | 持ってくんの忘れちゃった。 | [T_Answer] |

これ以降に示すタスク系のタグはそれぞれ対となるタグを持っており、隣接ペアの第1成分と第2成分に相当するものとして位置付けられる。ただし、これ

7) 今後、この例のように同一話者が続けて行った発話が2つ以上の発話単位に分かれる場合、行を改め、話者名は省略して記載する。

らの一方が欠けた状態で会話が進行することもある。

■情報要求 (T_Question) 聞き手に特定の情報を要求する振る舞い。

■確認要求 (T_CheckQuestion) 先行するやり取りの中で含意されていたり、すでに共有されていたりするなど、同意が強く予想される情報について確認する振る舞い。

■返答としての情報・確認提供 (T_Answer) 上記の情報要求や確認要求に答える振る舞い。

会話ID：C001_001

- | | | |
|------|--------------|--------------|
| 1 玲子 | 誰誰誰にペン借りたっけ。 | [T_Question] |
| 2 | あたし。 | [T_Question] |
| 3 美沙 | わたし。 | [T_Answer] |

会話ID：T002_018

- | | | |
|------|---------------------|-------------------|
| 1 直也 | 新宿の西口出てさーあの。 | [T_Inform] |
| 2 綾音 | 西口ってあの小田急があるほうでしょ?。 | [T_CheckQuestion] |
| 3 直也 | うん。 | [T_Answer] |

■依頼系 (T_Request) 依頼・指示・命令・提案・勧誘など、聞き手に対し特定の行為をするよう働きかける振る舞い⁸⁾。

■依頼系への対処 (T_A-Request) 上記の依頼系に対し、それを受け入れる、拒否する、あるいは判断を保留する振る舞い。

会話ID：C002_003 依頼相当の例

- | | | |
|------|---------------|---------------|
| 1 日野 | じゃあバイクで帰ってきて。 | [T_Request] |
| 2 智也 | うん。 | [T_A-Request] |
| 3 | わかった。 | [T_A-Request] |

8) 依頼系に含まれる依頼・指示・命令・提案・勧誘といった行為の区別は言語表現による部分が大きく、厳密に区別することが困難な事例が多く存在した。本枠組みではこれらを操作的に区別するのではなく、関連する事例を広く拾い上げたうえで必要な事例を選定できるよう、まとめて依頼系タグの付与対象とした。

会話ID：T005_006 提案相当の例

- 1 長谷川 で子供は花火とかやればいいじゃん?。 [T_Request]
2 夜は。 [T_Request]
3 まみこ うん。 [T_A-Request]

会話ID：K002_014 指示相当の例

- 1 杉田 んじゃあんゼリーはあしたにして きょうはバナナにしないで。 [T_Request]
2 朔也 うん。 [T_A-Request]

会話ID：K002_014 許可要求相当の例 杉田の携帯を操作していいか尋ねている

- 1 朔也 これを いいね 押していい?。 [T_Request]
2 杉田 だめ だめ。 [T_A-Request]

■申し出 (T_Offer) 聞き手にとって恩恵となると思われる物事を、話し手が今あるいは将来提示しようとする振る舞い。

■申し出への対処 (T_A-Offer) 上記の申し出に対し、それを受け入れる、拒否する、あるいは判断を保留する振る舞い。

会話ID：T003_004 所有物を挙げることで貸し出しを申し出ている

- 1 美希 ミトンもある。 [T_Offer]
2 由美 助かるねー。 [T_A-Offer]

当該の発話単独で申し出を構成する場合に加え、物の差し出しなどといった身体的振る舞いを伴って申し出を行う場合もここに含む。

会話ID：T006_008a 注文した料理を店員が配膳している

- 1 店員 角煮とー チーズスティックくなりまーす。 [T_Offer]
2 浜田 はい。 [T_A-Offer]

■注意獲得 (T_AttentionGetting) 聞き手の注意を獲得しようとする振る舞い。やり取りへの参加を求めるため、あるいは現在行っている活動への注意をひくために産出された、呼びかけ表現や相手の名前などに付与する。すでにやり取りに注意を向けている相手に対し、改めて注意をひこうとする振る舞

いもここに含む。

■注意獲得への対処 (T_A-AttentionGetting) 上記の注意獲得に対する応答。

会話ID：T006_009

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1 尾形 すいません。 | [T_AttentionGetting] |
| 2 店員 はい。 | [T_A-AttentionGetting] |
| 3 尾形 ん ジンロをもう一本。 | [T_Request] |

(B) フィードバック系

相手の発話を受け取ったという反応を任意で返すことが可能な状況（以下「フィードバック位置」）における発話に対して付与する。情報提供に対する反応、隣接ペア第2成分に対する反応、あいづちなどがこれに相当する。表現形式に応じてフィードバック肯定、フィードバック了承、フィードバック反復、フィードバック語彙的反応の4タグから適当なものを選ぶ。該当する表現は、Den, *et al.* (2011) のあいづち表現を参考に一部修正を加えた。なお、フィードバック位置に生起しているものの表現リストに含まれない場合は、タスク系の情報提供などフィードバック系以外のタグを付与する。発話を否定する表現（例：いやいや、そんなことない、違うでしょ）や評価表現（例：すごい、いいな）を含む場合もこれに該当する。

■フィードバック肯定 (FB_Positive) 相手発話を受け取ったことや、相手発話に対する感嘆や驚きなどの感情を感動詞によって示すフィードバック反応。

会話ID：C001_001

- | | |
|------------------------------|---------------|
| 1 美沙 で 骨はね一回撮ってみましょうかってゆわれて。 | [T_Inform] |
| 2 玲子 うーん。 | [FB_Positive] |

これらは次が用いられた場合に付与する：(1) 応答系感動詞（例：うん、はい、ええ、ああ）、(2) 感情表出系感動詞（例：あつ、えー、うわ、あらら、やーん）、(3) 「そう」系（例：そう、そっか、そうなんだ、そういうことか）、(4) 「そう」系の「そう」が省略されたもの（例：ですね、でしょう、だよね）。

■フィードバック了承 (FB_Acceptance) 相手発話の受け取りや了承を明示的に示すフィードバック反応。「オッケー」「了解」「わかりました」など、反

応先の発話を了承したことを明示的に示す表現が用いられた場合に付与する。

会話ID：T004_001

- | | | | |
|---|-----|-------------|-------------------|
| 1 | 一ノ宮 | 氷まだ使うでしょー？。 | [T_CheckQuestion] |
| 2 | さとし | うん。 | [T_Answer] |
| 3 | 一ノ宮 | オッケ。 | [FB_Acceptance] |

■フィードバック反復 (FB_Repetition) 相手発話で用いられた表現を用い、当該発話の受け取りを示すフィードバック反応。相手発話 (の一部) の繰り返しや、それに文末表現が付加された表現が用いられた場合に付与する。

会話ID：T004_001

- | | | | |
|---|-----|--------------|-----------------|
| 1 | 一ノ宮 | これは 今度はなーに？。 | [T_Question] |
| 2 | さとし | コーラ。 | [T_Answer] |
| 3 | 一ノ宮 | コーラ。 | [FB_Repetition] |

■フィードバック語彙的反応 (FB_Lexical) 慣用的に用いられる語彙的なあいづち形式によるフィードバック反応。「なるほど」「たしかに」「本当」「うそ」「わかる」など、慣用的に用いられる語彙的なあいづち形式が用いられた場合や、それらに文末表現が付加された場合に付与する。

会話ID：T001_009

- | | | | |
|---|----|-----------------------|--------------|
| 1 | 義母 | だから ばー 防火用? にもなるのかなー。 | [T_Inform] |
| 2 | 広瀬 | なるほどなるほど。 | [FB_Lexical] |

(C) 社会的付き合い管理系

定型表現が用いられることが多いが、当該の行為がなされていると聞くことができる、どのような表現でも広くタグの適用対象とする。

■挨拶 (S_Greeting) 出会いや別れをはじめ、活動の開始や終了、節目などに際して挨拶を行う振る舞い。

会話ID：C002_006a

- | | | | |
|---|----|--------|--------------|
| 1 | 水野 | こんにちは。 | [S_Greeting] |
|---|----|--------|--------------|

会話ID：T011_005

- | | | |
|------|----------|--------------|
| 1 佐竹 | いただきまー。 | [S_Greeting] |
| 2 パパ | いただきまーす。 | [S_Greeting] |
| 3 清隆 | いただきまーす。 | [S_Greeting] |
| 4 翔真 | いただきましゅ。 | [S_Greeting] |

会話ID：T015_008a

- | | | |
|------|----------|--------------|
| 1 小川 | お疲れでしたー。 | [S_Greeting] |
|------|----------|--------------|

■謝罪 (S_Apology) これまでに生じた事柄やこれから生じる事柄について、話し手自身に非があることを示し謝罪する振る舞い。

■謝罪への対処 (S_A-Apology) 謝罪を受け入れる、拒否する振る舞い。

会話ID：C001_012

- | | | |
|------|--------------------|---------------|
| 1 玲子 | ごめんね。 | [S_Apology] |
| 2 | ちょっと見た目いまいちなんだけどさ。 | [T_Inform] |
| 3 辰嶋 | いいよんー。 | [S_A-Apology] |

■感謝 (S_Thanking) 発話の聞き手への感謝を表明する振る舞い。

■感謝への対処 (S_A-Thanking) 感謝を受け入れる、拒否する振る舞い。

会話ID：T009_010

- | | | |
|------|-----------|----------------|
| 1 早苗 | どうもありがとう。 | [S_Thanking] |
| 2 圭吾 | はい。 | [S_A-Thanking] |

会話ID：K002_003a

- | | | |
|------|-----------------|--------------|
| 1 中沢 | 助かりました。 | [S_Thanking] |
| 2 杉田 | (L) | [O_NV] |
| 3 中沢 | (L ありがとうございます)。 | [S_Thanking] |

(D) その他

タスク系、フィードバック系、社会的付き合い管理系のいずれにも該当しない発話については、以下のいずれかを付与する。

■**非言語行動** (O_NV) 笑いや呼気・吸気などの非言語音が発話を伴わず単独で1単位を構成している場合に付与する。

会話ID：C001_001

- | | | |
|-------|--------------------------|-----------------|
| 1 美沙 | でなんであの一長くなりましたがお尻は大丈夫です。 | [T_Inform] |
| 2 美香 | (L) | [O_NV] |
| 3 玲子 | (L 長くなりました)。 | [FB_Repetition] |
| 4 可奈子 | (L) | [O_NV] |

■**合図** (O_Cue) 発話順番の管理、話題の節目の表示、掛け声などといった局所的なタイミングの表示など、主として相互行為の調整や発話の調子を整える機能を果たす場合に付与する。

会話ID：T003_001

- | | | |
|------|-------------|--------------------------|
| 1 大和 | そうすればいいじゃん。 | [T_A-Request] |
| 2 | はい。 | [O_Cue] [LV2:Closing] |
| 3 由美 | はい。 | [O_Cue] [LV2:A-Closing] |
| 4 大和 | おしまいです。 | [T_Inform] [LV2:Closing] |

上の例にある [LV2:Closing] などのように、「合図」タグの付与された発話が果たしている機能について、レベル2タグ (2.2.4節で後述) に該当する機能が存在する場合は併せて付与する。

■**不明** (O_Undet) 当該発話で何を行っているかが判断できない場合に付与する。例として、発話の聞き取りが困難であったり、発話が中断されたりなどといった理由で生じる。

2.2.4 レベル2

レベル2は、相互行為の調整や展開を管理するなど、やり取りを補助する振る舞いについて扱う。レベル1タグは1単位に対し必ず1つ付与するが、レベル2タグは該当する場合にのみ付与する。タグセットを表3に示す。

表3 レベル2タグセット

回収系	回収／回収への対処／補完／補完への対処
修復系	修復開始／修復操作
談話構造化系	談話開始／談話開始への対処／談話終了／談話終了への対処
準備系	準備／準備への対処／投射された本体
順番管理系	順番取得／順番維持／順番開放／順番放棄
メタ発話情報系	読み上げ／冗談

(A) 回収系

会話内外における出来事を通して参与者たちがすでに共有している情報や、そこから予想されることを提示・再確認する振る舞いに付与する。

■回収 (Confirmation) ／回収への対処 (A-Confirmation) 「回収」は、すでに共有されていることが強く期待される事柄について、念押ししたり、言い換えによって理解を表示・確認するなどの振る舞いに、「回収への対処」は、それらを承認する、棄却するなど、反応を返す振る舞いに付与する。

会話ID：T007_017 三番目の議題に移っていいか確認している

- 1 塚田 えー じゃあ 三番行っていいですかね。 [T_Request]
- 2 小山 はい。 [T_A-Request]
- 3 塚田 一番二番でなんかありますか?。
[T_Request] [LV2:Confirmation]
- 4 小山 いえ。 [T_A-Request] [LV2:A-Confirmation]
- 5 ないね?。 [T_A-Request] [LV2:A-Confirmation]

■補完 (Completion) ／補完への対処 (A-Completion) 「補完」は、先行発話に統語的に続く部分を先取りすることで、先行発話への理解を示したり、再確認を行う振る舞いに、「補完への対処」は、それらの振る舞いを承認する、棄却するなど、反応を返す振る舞いに付与する。

会話ID：T009_010

- 1 桃子 そいで 三鷹のうちに寄って。 [T_Inform]
- 2 早苗 留守番してたのね?。
[T_CheckQuestion] [LV2:Completion]
- 3 桃子 うん。 [T_Answer] [LV2:A-Completion]

(B) 修復系

■ 修復開始 (RepairInitiation) / 修復操作 (Repair) Schegloff, *et al.* (1977) における他者開始修復および第3の位置での修復に付与する。他者開始修復の場合、聞き手が行う聞き返しなどの修復開始に関わる発話に「修復開始」、これに応じて、問題があったと判明した発話を再度産出し直すなどといった修復の操作に対して「修復操作」を付与する。

会話ID：T015_010

1 高畑 村山かてうどん。 [T_Inform]

2 小川 村山何うどん?。
[T_Question] [LV2:RepairInitiation] [RD→1]

3 高畑 村山かてうどんてゆうの。 [T_Inform] [LV2:Repair] [PD→2]

第3の位置での修復の場合、自身の発話が相手に誤って理解された可能性があることを表明する発話に「修復開始」、問題となっている自身の発話をやり直すなどの操作に対して「修復操作」を付与する。

会話ID：K004_011 お菓子の焼型にバターを塗っている

1 謙三郎 塗り。 [T_Inform]

2 島村 無理じゃないです。 [T_A-Request]

3 謙三郎 違う。 [T_Inform] [LV2:RepairInitiation] [RD→1,2]

4 塗りだよ。 [T_Inform] [LV2:Repair] [RD→1,2]

上の例にある [RD→1] や [RD→1,2] は、2.2.5節で解説する依存関係に関するタグであり、関係する発話に振られた番号を依存先として指定する。依存関係は、他者開始修復の場合、「修復開始」で問題の原因となった発話を依存先に指定し遡及的依存関係を、「修復操作」で「修復開始」の付与された発話を依存先として指定し予測的依存関係を付与する。第3の位置での修復の場合、「修復開始」と「修復操作」のそれぞれで問題の原因となった発話と問題発覚のきっかけとなった発話を依存先として指定し遡及的依存関係を付与する。

(C) 談話構造化系

話題や活動を区切る位置において、談話を構造化する働きを担う発話に付与する。

■**談話開始 (Opening) / 談話開始への対処 (A-Opening)** 「談話開始」は話題や活動の開始に関する発話、例えば、話題の導入や活動開始の合図・宣言などの振る舞いが該当する。「談話開始への対処」はこれらに応じる振る舞いに付与する。聞き手として話題変更に対応する準備ができていることを表示したり、新しい活動の開始を受け入れることを表示する振る舞いなどが含まれる。

会話ID：S001_018

- | | | |
|------|--------------------------|-------------------------------|
| 1 健 | あとね も一個ねー やろうとしてるのがあってー。 | [T_Inform] [LV2:Opening] |
| 2 園部 | ふん。 | [FB_Positive] [LV2:A-Opening] |
| 3 堀江 | うーん。 | [FB_Positive] [LV2:A-Opening] |
| 4 園部 | なーに?。 | [T_Question] [LV2:A-Opening] |

■**談話終了 (Closing) / 談話終了への対処 (A-Closing)** 「談話終了」は話題や活動の終了に関する発話、例えば、話題のまとめや活動を終える提案、挨拶、活動の区切れ目をマークする「はい」などといった発話が該当する。「談話終了への対処」はこれらに応じる振る舞い、例えば、発話の受け入れのみを示すことでそれ以上のコメントを避けたり、挨拶を返したり、あるいは活動を区切る合図を繰り返すなどといった振る舞いに付与する。

会話ID：T001_011

- | | | |
|------|-----------------------------|-------------------------------|
| 1 広瀬 | そうなんじゃないかなって思いながら 聞いてたけどね?。 | [T_Inform] [LV2:Closing] |
| 2 千秋 | うーん。 | [FB_Positive] [LV2:A-Closing] |
| 3 広瀬 | なーるほどなー と思いながら。 | [T_Inform] [LV2:A-Closing] |
| 4 洋平 | うーん。 | [FB_Positive] [LV2:A-Closing] |

(D) 準備系

■**準備 (Pre) / 準備への対処 (A-Pre) / 投射された本体 (ProjectedAction)**
ある行為を行うにあたって、それを事前に予告したり、前提条件を確認したりするといった一連のやり取りに対し付与する。「準備」は行為の予告や前提条件の確認、「準備への対処」はその受け入れや拒否を行う発話に付与する。予告や前提条件の提示によって先送りにされていた本題に相当する振る舞いが実際に行われた場合には、当該箇所「投射された本体」を付与する。Schegloff (2007) の先行連鎖に相当するやり取りや、隣接ペア第1成分の後に置かれ、第

2成分の産出に先立ち条件を確認する挿入連鎖などもここに含む。

会話ID：T006_009 おいしい料理を出す店について情報交換している

- 1 根本 もっとうまいとこ教えようか。 [T_Offer] [LV2:Pre]
- 2 尾形 何。 [T_A-Offer] [LV2:A-Pre]
- 3 根本 下町にあんのよ。 [T_Inform] [LV2:ProjectedAction]
- 4 なんか ニュースでやってた。 [T_Inform]

会話ID：T006_008a 追加で注文する料理を相談するに際し、頼んだ料理がすでに全部来ているかを確認している

- 1 古賀 どうしょっか。 [T_Request]
- 2 浜田 これぜ全部-?。 [T_Question] [LV2:Pre]
- 3 尾形 そうだね?。 [T_Answer] [LV2:A-Pre]

(E) 順番管理系

発話順番を調整する振る舞いを扱う。タグは以下の4種類を用意した。

■**順番取得**(TurnTake) 感動詞などを短く発し、それによって順番が取得され、その後と同じ話者の発話が続くと聞ける場合に付与する。

会話ID：T009_010

- 1 早苗 この葉っぱはうちで作ってある葉っぱ。 [T_Question]
- 2 圭吾 あ。 [FB_Positive] [LV2:TurnTake]
- 3 これはね 買ったやつ。 [T_Answer]

■**順番維持**(TurnKeep) 発話順番を維持する振る舞いで、フィラーなど発話の準備をしていることを表す発話が、単独の単位として現れる場合に付与する。

会話ID：T009_017

- 1 安藤 なんてゆったらしいの。 [T_SelfSpeech] [LV2:TurnKeep]
- 2 都会にいるやつじゃないやつ。 [T_Inform]

■**順番開放**(TurnRelease) 発話順番が完結地点や区切りに達したことを示す振る舞いで、自身の発話順番の末尾や区切れ目を明示する場合に付与する。

会話ID：C001_012

- 1 玲子 彼女すごい事務能力ありますよ。 [T_Inform]
- 2 うん。 [O_Cue] [LV2:TurnRelease]

■**順番放棄 (TurnRetraction)** 当該の発話順番で行っていた行為を産出しきらないうちに発話を取りやめ、順番を放棄する振る舞いに付与する。他の話者と発話が重複したり、現在行っているものとは別の行為を即座に開始する必要が生じたりなど、様々な理由によって生じうる。

会話ID：C001_012 辰嶋が買ってきたお土産について話している

- 1 辰嶋 じゃあそれはわざわざ買った甲斐があったね?。 [T_Inform]
- 2 玲子 うん。 [FB_Positive]
- 3 辰嶋 なんかさ 仮にさ。 [T_Inform] [LV2:TurnRetraction]
- 4 玲子 結構したでしょ。 [T_CheckQuestion]

(F) メタ発話情報系

発話への話者の態度に関する付加情報を示すタグである。話し手が自ら組み立てたのではない表現や、話し手の意志に即してはいないと考えられる振る舞いを選び分ける際に参照できるタグとして補助的に用意したものである。

■**読み上げ (ReadOut)** 当該の発話が、すでに書かれている、あるいは現在書いている文字を読み上げたものである場合に付与する。

会話ID：K001_014 携帯電話に表示された検索結果を読み上げている

- 1 奈津子 条件に合うツアーはありませんでした。 [T_Inform] [LV2:ReadOut]

■**冗談 (Joking)** 当該行為が冗談としてなされている場合に付与する。

会話ID：T015_008a 美容師の正裕と客の小川が髪型について話している

- 1 小川 ちょっとボーイスクウトの人はモヒカンよくないね。 [T_Inform]
- 2 正裕 それかーあの一上のほうだけ剃って逆モヒカン。 [T_Request] [LV2:Joking]

2.2.5 依存関係情報

依存関係情報では、例えば情報要求の発話とそれに対する返答の発話のように、ある発話が他のどの発話と、どのような関係を結んでいるのかを取り扱う。レベル1およびレベル2のそれぞれについて、該当する場合に限り、依存関係の種類を示す「依存関係タグ」を付与し、関係する発話に振られた番号を「依存先」として指定する。すべての発話は、先行あるいは後続する発話と何らかの関係を持っていることが多いが、本枠組みでは、その中でも特に2種類の関係に着目して情報を付与する。以下では、関係を結ぶ発話のうち、時間的に前に生じたものを「第1発話」、後に生じたものを「第2発話」と呼ぶこととする。

■**予測的依存関係 (ProspectiveDependence : PD)** 予測的依存関係は、相手に特定の行為を要求するタイプの第1発話と、それに応える第2発話との間にある関係を示す。典型的には[情報要求-返答][依頼系-依頼系対処][挨拶-挨拶]のような隣接ペアに相当し、第1発話が特定の行為を第2発話として要求し、それが返されなかった場合にはその理由が探されるような強い結び付きを持つ発話同士に付与される。第2発話に予測的依存関係タグを付与し、第1発話を依存先として指定する。

会話ID : T004_001

- | | | | |
|---|-----|---------------|-------------------|
| 1 | パパ | コーラに何に入ってるの?。 | [T_Question] |
| 2 | 一ノ宮 | 焼酎。 | [T_Answer] [PD→1] |
| 3 | さとし | 焼酎。 | [T_Answer] [PD→1] |

この事例のように、1行目で行われた情報要求に対して2人の話者がそれぞれ返答を返した場合、両者に依存関係を認め、同じ1行目を依存先に指定する。予測的依存関係で結ばれる第1発話と第2発話は近接した位置に生じるのが一般的だが、関係性が見いだせる場合には離れていても付与対象となる。

■**遡及的依存関係 (RetrospectiveDependence : RD)** 遡及的依存関係は、何らかの行為を担う第1発話と、それに対するフィードバック反応相当と聞かれる第2発話との間にある関係を示す。上述の予測的依存関係は、第1発話が第2発話の生起を強く条件付ける。これに対し遡及的依存関係は、あいづちや先行発話の受け止めなど、任意で返す反応を第2発話とし、その反応を引き出すもととなった第1発話との間にある関係を示すものである。

会話ID：K001_008

- 1 萌 そしたらあと国内線も通路側で予約してくれてて。 [T_Inform]
- 2 郁 うん うん うん。 [FB_Positive] [RD→1]
- 3 萌 でえーと思う（L て）外見たいのにーって思ったの。 [T_Inform]
- 4 郁 うん。 [FB_Positive] [RD→3]
- 5 萌 そしたらねー 二回ともねー 代わってくれたの。 [T_Inform]
- 6 郁 ふーん。 [FB_Positive] [RD→5]

会話ID：T015_010

- 1 小川 お店の名前とか 前と変わらないですね?。 [T_Question]
- 2 高畑 前と一緒にです。 [T_Answer] [PD→1]
- 3 小川 はい。 [FB_Positive] [RD→2]

以上が本枠組みが扱う依存関係情報の中心的なタグである。これに加え、転記に示されない対象に対する反応を担う発話には、以下の2種類のタグを用意し補足的に付与している。これらは依存先が単位を与えられていないため、第2発話に依存関係タグを付与し、依存先は指定しない。

■外部予測的依存関係 (ExternalProspectiveDependence：PD-Ex) 相手に特定の行為を要求する発話以外の振る舞いと、その要求に応じる発話との間にある関係を示す。特定の行為を要求する発話以外の振る舞いとしては、参与者による物の差し出しや注文の呼び鈴、電話口の向こう側にいる、収録協力者ではない者の発話といった、転記対象外の発話などが例として挙げられる。予測的依存関係における第1発話に相当する振る舞いが転記で示されない形で生じた際に、これに応じる第2発話が本タグの付与対象となる。

会話ID：T004_001 パパがさとしにドレッシングを差し出したことに反応している

- 1 さとし ああ。 [FB_Positive] [RD-Ex]
- 2 もう僕はかけたけど。 [T_Answer] [PD-Ex]
- 3 パパ あ。 [FB_Positive]
- 4 かけた。 [FB_Repetition]

■外部遡及的依存関係 (ExternalRetrospectiveDependence：RD-Ex) 転記上に示されない出来事と、それに対する任意の反応を示す発話との間にあ

る関係を示す。発話以外の形で生じた事物、例えば、携帯電話の画面に表示された文字、聞こえてきた音、口に入れた料理、また、転記対象外の発話などをきっかけに生じた、フィードバック相当の発話に付与する。また、話題全体に対するフィードバックといった、依存先がやり取りの広範にわたる場合のフィードバック反応を担う発話についてもこのタグの付与対象としている。

2.3 付与作業

■**談話行為を判断する視点** 会話データの参加者の視点に立ちながら、彼らがそこで経験したやり取りの形に即して談話行為を判断した。例えば実際の会話では、参加者たちは、言語形式だけでなく、発話速度や韻律といったパラ言語情報、発話開始のタイミング、表情、視線、手の動き、身体の向きといった視覚情報、当該発話以前の談話展開など、様々な資源を複合的に用いることで、発話を産出したり、相手の発話を理解したりしている。そこで、情報付与を行う作業も、参加者が使用しているこれらの資源を、収録された音声・映像データから読み取れる限りにおいて、談話行為の判断に用いることとした。

また談話行為の判断は、会話データを繰り返し視聴しつつも、やり取りをリアルタイムに見聞きする参加者の視点に立って行った。つまり、現行のやり取りより後に生じる要素を判断の材料とはせず、当該発話の産出以前になされたやり取りや、当該発話と同時に生じた他者の発話のうち、話し手が受け取ることができたと予想できる部分など、当該の参加者が発話する時点で参照可能な資源のみを判断の根拠とした。実際の会話では、意図が不明瞭な発話がなされたり、発話中の表現を誤っていたり、参加者間に誤解が生じていたことが後に発覚したりするようなこともある。情報付与に際して、後に生じるやり取りを参照し、「正しい」発話に置き換えて行為を判断することも可能である。しかし、本枠組みではあくまでも、参加者たちがその時点で参照可能であった資源を判断の材料として使用するため、このような対応は行わなかった⁹⁾。

9) 参加者が当該発話に対して行った判断と実際に付与される談話行為情報はできる限り近づくように作業を行っているが、ずれが生じる例もある。その1つは、談話行為情報を判断するタイミングに関するルールに起因するものである。作業者は各発話単位を最後まで聞いた時点で談話行為を判断するようルール化している。そのため、ある参加者が先行発話を途中まで聞いた時点でその談話行為(例:情報要求)を判断し、反応(例:返答としての情報提供)を返したけれども、実際の先行発話はその末尾までを聞くと別の談話行為(例:情報提供)を行っていたといったことが生じうる。このような場合、参加者の談話行為の判断と実際に付与された談話行為情報は一致しないことになる。

■**作業体制・作業環境** 情報付与作業は、日常で行われている相互行為を捉えた音声・映像データの分析に習熟した作業者によって行われた。作業者は、マニュアルの確認や情報付与の試行、作業したデータに対するフィードバックを受けるなどのトレーニングを経たうえで、CEJCへの談話行為情報の付与にあたった。1つの会話につき2名以上の作業者が全体に目を通して確認する体制を取った。判断に迷う箇所については、作業者間で相談を行い、最も妥当と思われるタグを決定した。

作業には、アノテーションツールのAnvil (Kipp 2001) と、表計算ソフトのExcelを併用した。Anvilは、音声・映像を確認しながら、それに連動するタイムライン上の転記に対して情報を付与できるツールである。特に、発話同士の関係を示す際に、依存先となる発話をクリックして指定できる点が有用であり、主にレベル1タグやその依存関係の付与に用いた。一方、やり取りの大局的な展開を参照しながら行うレベル2タグの付与や、データ全体を通して繰り返し確認する際にはExcelを使用した。この場合にも、メディア再生用のアプリケーションやExcelのマクロ機能を活用し、該当箇所の音声・映像を確認しながら付与作業を行った。

□ 3 談話行為情報付与結果の概要

■**レベル1タグ概要** CEJCに対するレベル1タグの付与結果について、4つの下位分類それぞれの出現頻度と全体に占める割合を表4に示す。最も多く付与されたのはタスク系の54.5%で、内訳は表5のとおりである。フィードバック系は36.2%で、内訳は表6のとおりである。社会的付き合い管理系は出現する文脈が限られ、0.7%と最も少ない。内訳は表7のとおりである。そして、その他が付与されたのは全体の8.6%であった。このうち74.6%は非言語行動タグで、その大半(98%)が笑いに相当する振る舞いである。

表4 レベル1タイプ別頻度と割合

タイプ	頻度	割合 (%)
タスク系	32344	54.5%
フィードバック系	21447	36.2%
社会的付き合い管理系	442	0.7%
その他	5091	8.6%

表5 レベル1タスク系における頻度と割合

タグ	頻度	割合 (%)
情報提供	19679	60.8%
返答としての情報・確認提供	3148	9.7%
情報要求	3089	9.6%
依頼系	2139	6.6%
独り言	1218	3.8%
依頼系への対処	1152	3.6%
確認要求	1003	3.1%
申し出	368	1.1%
注意獲得	306	0.9%
申し出への対処	208	0.6%
注意獲得への対処	34	0.1%

表6 レベル1フィードバック系における頻度と割合

タグ	頻度	割合 (%)
フィードバック肯定	19542	91.1%
フィードバック反復	1266	5.9%
フィードバック語彙的反応	567	2.6%
フィードバック了承	72	0.3%

表7 レベル1社会的付き合い管理系における頻度と割合

タグ	頻度	割合 (%)
感謝	143	32.4%
挨拶	123	27.8%
謝罪	120	27.1%
謝罪への対処	40	9.0%
感謝への対処	16	3.6%

■**レベル2タグ概要** 該当する場合のみ適用されるレベル2タグが実際に付与されたのは、全体の17.8%にとどまった。レベル2タグの付与結果について、6つの下位分類それぞれの出現頻度と全体に占める割合を表8に示す。順番管理系（発話順番の管理を担う振る舞い）や、回収系（積極的な聞き手行動に相当する振る舞い）が比較的多いのは、会話の局面を問わずやり取りの全域に出現しやすい振る舞いであるためと考えられる。

表8 レベル2タイプ別頻度と割合

タイプ	頻度	割合 (%)
順番管理系	3923	37.0%
回収系	3126	29.5%
談話構造化系	1991	18.8%
修復系	880	8.3%
メタ発話情報系	372	3.5%
準備系	322	3.0%

■会話メタ情報との関連 レベル1タグを話者の年齢層別にまとめたものが図1である。

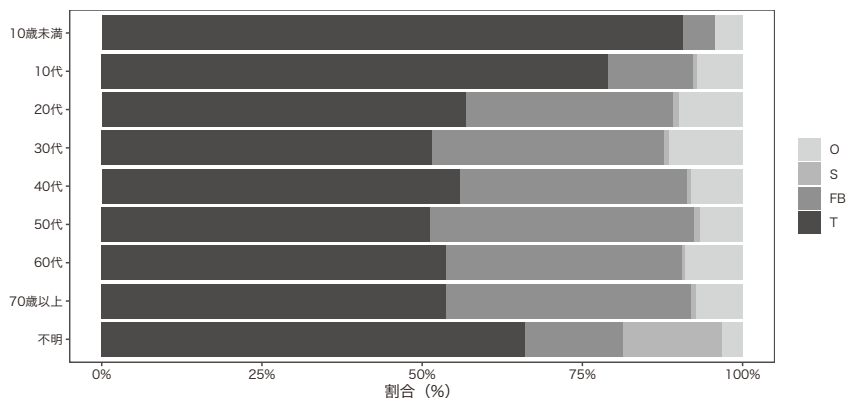


図1 年齢層別にみたレベル1のタイプの内訳

10歳未満と10代ではフィードバック系の使用が目立って少なく、あいづちを中心とした聞き手行動が子どもから大人になるにつれて増えていくといったコミュニケーション行動の変化が示唆される。ただし、10歳未満と10代については協力者数が他の年齢層に比べて少なかったため、談話行為情報も会話場面の性質や個人差の影響を受けやすくなっている点に注意が必要である。その他の特徴として、年齢層の情報が付与されていない話者（図中「不明」）は、それ以外の話者と比べて社会的付き合い管理系の割合が大きくなっていることが挙げられる。その場限りの関係の下に協力者とやり取りを交わした話者、主に店員などといったサービス提供者が多くここに分類されている。サービス提供

の開始や終了といった節目には挨拶や感謝の表明などの定型表現が生じやすく、これらが客と交わす短いやり取りの中で相対的に大きな位置を占めることが反映されていると考えられる。

□4 おわりに

本章では、CEJCに対して談話行為情報を付与する試みを軸に、参考にした先行研究や採用した枠組み、その付与結果について紹介した。今回情報付与に用いた枠組みは、音声・映像付きコーパスの事例検索の手がかりとしての使用を主目的として位置付けたことや、扱う会話場面が多岐にわたること、現実的に割くことのできる作業コストなどといった具体的な背景に合わせて策定したものである。目的や付与対象とするコーパスの性質など、条件が変われば適切な付与枠組みも異なってくると考えられる。あらゆる期待を満たす枠組みを見出すことは簡単なことではないが、より合理的に、より正確に、実際に実現した相互行為を捉えることができる枠組みについて検討を続けることは、言語資源の活用の幅を広げ、コミュニケーション研究の発展につながる重要な試みであると考えられる。

参考文献

- Allen, J. & Core, M. (1997) Draft of DAMSL: Dialog act markup in several layers. <https://www.cs.rochester.edu/research/cisd/resources/damsl/RevisedManual/>
- Allen, J. F., Schubert, L. K., Ferguson, G., Heeman, P., Hwang, C. H., Kato, T., Light, M., Martin, N., Miller, B., Poesio, M. & Traum, D. R. (1994) The TRAINS Project: A case study in building a conversational planning agent. *Journal of Experimental and Theoretical Artificial Intelligence*, 7 (1): 7–48.
- Allwood, J. (1992) *On dialogue cohesion*. Gothenburg Papers in Theoretical Linguistics 65.
- Anderson, A. H., Bader, M., Bard, E. G., Boyle, E. A., Doherty, G., Garrod, S., Isard, S., Kowtko, J., McAllister, J., Miller, J., Sotillo, C., Thompson, H. S. & Weinert, R. (1991) The HCRC map task corpus. *Language and Speech*, 34 (4): 351–366.
- 荒木雅弘・伊藤敏彦・熊谷智子・石崎雅人(1999)「発話単位タグ標準化案の作成」『人工知能』14 (2), 251–260.
- Austin, J. L. (1962) *How to do things with words*. Oxford University Press. (坂本百大(訳) (1978)『言語と行為』大修館書店)
- Bunt, H. (2009) The DIT++ taxonomy for functional dialogue markup. In: D. Heylen, C. Pelachaud, R. Catizone, & D. Traum (eds.) *Proceedings of AAMAS 2009 Workshop Towards a Standard Markup Language for Embodied Dialogue Acts (EDAML 2009)*, 13–24.
- Bunt, H. (2011) Multifunctionality in dialogue. *Computer Speech & Language*, 25 (2): 222–245.

- Carletta, J., Isard, A., Isard, S., Kowtko, J., Doherty-Sneddon, G., & Anderson, A. (1996) *HCRC dialogue structure coding manual*. Technical Report HCRC/TR-82, Human Communication Research Centre.
- 談話・対話研究におけるコーパス利用研究グループ (2000) 「様々な応用研究に向けた談話タグ付き音声対話コーパス」『人工知能学会 研究会資料』SIG-SLUD-9903-4: 19-24.
- 伝康晴 (2015) 「対話への情報付与」小磯花絵 (編) 『話し言葉コーパス—設計と構築— (講座日本語コーパス 3)』101-130, 朝倉書店.
- Den, Y., Yoshida, N., Takanashi, K. & Koiso, H. (2011) Annotation of Japanese response tokens and preliminary analysis on their distribution in three-party conversations. *Proceedings of 2011 International Conference on Speech Database and Assessments (Oriental COCOSA)* : 168-173. <http://dx.doi.org/10.1109/ICSADA.2011.6086001>
- 石崎雅人・伝康晴 (2001) 『談話と対話 (言語と計算 3)』東京大学出版会.
- ISO 24617-2 (2012) Language resource management—Semantic annotation framework (Sem AF) — Part 2: Dialogue acts.
- ISO 24617-2 (2020) Language resource management—Semantic annotation framework (Sem AF) — Part 2: Dialogue acts.
- JDRI (2017) 『発話単位ラベリングマニュアル Version 2.1』 <https://www.jdri.org/resources/manuals/uu-doc-2.1.pdf>
- Kipp, M. (2001) ANVIL: A generic annotation tool for multimodal dialogue. *Proceedings of the 7th European Conference on Speech Communication and Technology (Eurospeech)*, 1367-1370.
- Popescu-Belis, A. (2005) Dialogue acts: One or more dimensions?. *ISSCO Working Paper 62*. ISSCO.
- Sacks, H., Schegloff, E. A. & Jefferson, G. (1974) A simplest systematics for the organization of turn-taking for conversation. *Language*, 50 (4) : 696-735.
- Schegloff, E. A., Jefferson, G. & Sacks, H. (1977) The preference for self-correction in the organization of repair in conversation. *Language*, 53 (2) : 361-382.
- Schegloff, E. A. & Sacks, H. (1973) Opening up closings. *Semiotica*, 8 (4) : 289-327.
- Schegloff, E. A. (2007) *Sequence organization in interaction: A primer in conversation analysis (Vol. 1)*. Cambridge University Press.
- Sinclair, J. & Coulthard, M. (1975) *Towards an analysis of discourse: The English used by teachers and pupils*. Oxford University Press.
- Stenström, A. B. (1994) *An introduction to spoken interaction*. Longman.

(居關友里子)